○○してみました世界のフィールド

タイ王国の展示を秋田へ

平井 京之介（ひらい きょうのすけ）
民博 超域フィールド科学研究部

美郷町歴史民俗資料館の民俗展示室

東南アジアについて研究・展示をおこなっている筆者。展示制作の協力を依頼され、秋田に向かった。タイと日本のかけ橋となろう文化展にみんぱくの収蔵資料をどのように活かせるか、秋田という地から考えてみた。

どうしてタイの展示なのか？

四月の終わり、秋田県中東部にある美郷（みさと）町という町を訪れた。今年一〇月にこちらの学友館で「タイ王国文化展（仮）」が予定されている。わたしはその展示制作に協力することになっていた。

どうして美郷町でタイ文化展なのか。美郷町は二〇二〇年東京オリンピックのホストタウンに一次登録されている。ホストタウンというのは、オリンピックをきっかけにして日本の自治体と大会参加国との交流を促そうというもので、美郷町の相手がタイのバドミントンチームなのだ。

ご存じない方のために、もう少し説明しよう。タイはバドミントンがけっこう強い。特に女子は、二〇二三年世界選手権シングルス金メダリストのラチャノック・インタノン選手を擁するなど、世界でもトップレベルだ。一方、秋田に本拠地を置く北都銀行バドミントン部は日本リーグ一部の強豪チームで、日本代表選手も所属している。かねてからタイのバドミントンチームと親交があり、これが縁で、今回美郷町のホストタウン登録が実現したという。

ここでぜひ強調しておきたい。オリンピックをきっかけに自治体が文化交流しようと考えるのはふつうである。だがその手段として展示を選ぶというのはかなり珍しい。博物館関係者としては涙が出る。

美郷という町

展示を使っての交流を成功させるには、展示される側だけでなく展示を見る美郷町の人びとのことも知っておく必要があるだろう。そこでまずは美郷町の歴史民俗資料館を案内してもらった。ここのわら細工展示室は圧巻である。五〇年くらい前のものだそうだが、精巧に作られていて、保存状態もかなりよい。その一部は秋田県指定有形民俗文化財になっている。民俗展示室には、小学生が描いた風景画を背景に、かつて町で使用された米作り道具が季節ごとに展示してあった。この地域の豊かな稲作文化を感じとることができる。

それから六郷地区の湧水群を見て回った。美郷町は扇状地にあり、地下水が豊富に湧き出る水の里として知られているという。町内に湧水が二六カ所あり、現在でも生活水として使われている。このきれいな水を利用して古くから酒造りがさかんだそうで、現在でも三つの蔵元が残っている。

同じ地区に寺町通りという通りがあり、通り沿いに二六の寺院が並んでいた。戦国時代に当地で町づくりをおこなった六郷氏は仏教を重んじ、寺院を手厚く保護したため、多くの寺院がよそから戦乱を逃れるなどして集まってきたという。現在でも町民の信仰心は篤（あつ）いとのことで、古くからの伝統行事もしっかりと残されているようだ。

展示の構想

さて、このような美郷町の方々に展示をとおしてタイの何が伝えられるか。これはかなりのチャレンジである。

美郷町は豊かな伝統文化をもっている。そして地元の歴史文化の教育にとても熱心だ。郷土文化と比較ができるようなタイ文化の展示ができないか。美郷町同様、タイは稲作がさかんであり、仏教に熱心である。熱帯のタイで水は重要なシンボルだ。こうした切り口から比較を促すことができれば、タイを知り、郷土を知ることにつながるのではないか。

宣伝になりますが、みんぱく特別協力の「タイ王国文化展（仮）」は一〇月二カ月だけの開催です。お近くの皆様、ぜひお越しください。

★日本、秋田

★タイ

上：美郷町歴史民俗資料館のわら細工展示室
下：六郷地区の湧水群のひとつ、御台所清水

美郷町歴史民俗資料館の入り口に立つ鐘馗様（しょうきさま）
（掲載写真はすべて 2017 年に撮影）